

第2回 大会計画策定(基本構想)幹事会 議事録

平成22年10月12日

開 会

<鹿田幹事長>

9月10日に第1回の会議を開催。その際いただいた多くのご意見を検討させて頂き内容を修正し基本構想(案)を今日ご議論いただく。

第1回の会議の後に県議会が開催され、ナラ枯れの被害対策、取り組みの評価、批評等、ご議論をいただいた。解決方向にまだ向かっていないため、県も苦慮しているところだが、9月29日、三朝町長にお世話になり、三徳山周辺でボランティアを含め30数名による試験的な取り組みを始めた。来年度以降、ボランティアの皆さんに協力頂けるような場所では、そういう方向で取り組みたい。

一方、危険な場所では専門業者に委託することが必要なので、ゾーニングして対応する。併せて、試験研究でも、最も有効な薬剤による駆除、その他に寄生線虫による駆除も考えられるので、そういう試験もやってみたい。

一部、飛び火して中山に被害が出ている所はあるが、そこでは、完全駆逐するよう取り組みをスタートさせたいと思っている。

平成25年春の全国植樹祭開催まで残りわずか。これらナラ枯れへの対応で、何とか被害の進行が三朝で止まって欲しいというふうに思っている。ナラ枯れ被害をある程度整理して開催を向かえなければ、格好が付かない。これからも皆さんのご協力を宜しくお願いしたい。

質 疑 応 答

資料 1、2の説明

<委員>資料1 4ページ、資料2 2ページイメージ図

真ん中の丸が全体の結束点で要になる場所なのだが、「伐採と整理」との行為そのものを書き出しているだけ。結束点に相応しい表現となるように、例えば、森林の管理、森林計画、森林の取り扱いのビジョン等、こうするのだというものがあって、その中から両側のサイクルが発生してくるという方がいい。「伐採と整理」とは、林業中心では、「片付けて」みたいな話になって、悲しくなる。

<幹事長>

ビジョンの目標の様なものが必要か。

<委員>

それが足りないし、資金計画や、県民が抱く森林の理想、等が真ん中に来る方が良い。

<幹事長>

ビジョンの目標等を掲げて整理させてもらう。

<幹事長>資料2 3～4ページ

植栽樹木検討専門委員会佐野委員長のご意見を伺い調整した事項。花回廊でどのようなゾーニングするのか具体的に書いた。花回廊の位置づけと奥大山の位置づけがかなり違っている事もあり、花回廊には皆さんのご意見が大体盛り込まれてきたのかと思っている。

<委員>

前回、オキノヤマスギについて、一番全国に名前の通ったスギを植えるべきだという意見があった。「学習の森」には、単に「スギ」の植栽でなく、学習の場での植栽なので、「オキノヤマスギ」の植栽という方向で考えた方がいい。

<事務局>

前回、鳥取県には全国の林業者に名の知れた「オキノヤマスギ」がある。こういったものをなぜ植えないのか？という意見があった。今回は、オキノヤマスギの流れを引く小花粉杉を植栽したい。この杉については素性も明らかにして、そのすばらしさを、子どもたちにわかるように表示したい。その他に県木のダイセンキャラボクも、花回廊周辺には育てていないが、それがどういったものであるかということも表示しながら子ども達の学習に役立て「学習の森」として位置付けて行きたいと考えている。

<委員>

前回、委員がおっしゃったのは、何百年もかかって成長したすごい杉が、わが県には育てていて、沖ノ山にも、氷ノ山にも、三朝町の三国山の近くにも、そして大山にも育てていることを伝えたい。そのことはすごく感動的なことだ。ということをおっしゃったのではないか。

<委員>

原案どおりの修正を承認。

<幹事長>資料2 5ページ

県民運動について色々な仕掛けを考えて行こうということで説明した。先程の挨拶でも、ナラ枯れ被害について、危険度の少ない場所であれば、ボランティアに粘着テープを巻きつけてもらうというような事も説明した。その他に被害木へのしいたけ植菌等は、実際、どの程度効果があるかよくわかってないが、シイタケ菌がナラ菌自体を抑えるという成果が、試験結果として出ているようなので、来年、再来年ぐらいにならないと結果は出ないが、三徳山で試験的に植菌をしている。そういうこともやりながら、色々な課題について県民総参加での取り組みをしていきたいと思っている。

<委員>

県民運動は、植樹祭の周知だけではなく、実際、本当にみんなで木を使う第一歩を踏み出す良いきっかけ作りになると思っている。「白うさぎ大使」は子どもに興味を持たせることで大人を啓発する様に見えるが、そうではなくて、本当に大人自らが山に関心を寄せることを仕掛けていく必要がある。例えば、岐阜県の全国植樹祭で行われた「森の健康診断」を、鳥取県では、多くの地域で一斉にやってみてはどうか。「森の健康診断」は、人工林に5,6人のグループが入って簡単な調査をするだけで、すぐにいまの森の現状を把握出来るというもの。実際山を遠目で見ているのではなくて山に入るきっかけになる。危険はほとんどない。誰もが参加出来て、森林の現状を見ることが出来る。その調査を事前に行って、植樹祭のときにその結果を報告するというようなことも岐阜県では行われたようだ。

持続可能な循環型の森林経営を行うことに関して、各家庭に本当に木を使ったものがあるのかという疑問もある。このイベントをきっかけに、みんなの家に少なくとも、一つは木を使った何かを持とうという気運を盛り上げていく。例えば冬用コタツの木製台を自作しようとか、テーブル台や棚でもいい。その他本当に各家庭や企業が木製品を使う運動を展開していく。行動を起こしつつ、この大会のPRの方向に、実のあるものがあれば良い。

<事務局>

白うさぎ大使の活動は、子ども達向けというだけではない。今やっている保全活動は、先程おっしゃられたことを含めての活動だ。漁師の方々の植樹活動も「とっとり共生の森」等で企業が取り組んでおられる活動も、白うさぎ大使という名前の下に実施している。

県議会常任委員会で、先程おっしゃいましたように、植樹祭開催を林業全体を活性化する起爆剤にするようにということでご意見を頂いている。この資料には、まだ書き足りない部分があるかもしれないが、「国造り運動」を契機として、森林林業の明るい将来までもっていこうと考えているところ。内容に具体的に揚げるという方法もあるので、検討させていただきたい。

<幹事長>

資料の文言には、木材利用が抜けていると思う。木材利用部分も盛り込んで、基本計画で「森の健康診断」の実施を計画する等、検討する。

<委員>

「森の健康診断」での森林の通信簿は、すでに森林組合が巡視員を通してやっている。それを公表していく方法を検討していけばよい。私の森林も通信簿をもらって、A,B,C,Dで言うとDに近いとのこと。恥ずかしいので間伐しようとなる。むしろ、大まかに東部・中部・西部で実際通信簿はどのような状況になっているのか、あまり良い点数は期待できないが、森林組合連合会にお伺いするとよいと思う。

<幹事長>

「森の健康診断」の提案は、県民が実際に、森に行つて森の状態を把握し、それを評価するようなシステムを作つたらどうかという意味合いだと思う。

<委員>

地元で既に実施したこともある。幹事長が言われるように、このことで、山も持っていない関心もない多くの方が、山に行つてみようと思う、きっかけ作りにする。専門家でもないが、ただふらつと山に行つてみて、森林はこういうふうになっているんだと分かる。評価システムも、確立されているので、それに沿つて調査すればすぐにわかる。後日、健康かどうか、山のデータが来るのではなくて、すぐその場でわかる。

<事務局>

その方向で検討する。

その他

<委員>

開催日の天候を十分調査すべき。少なくとも過去 50 年の気象を調査。雨の中、みんながカッパを着てというような大会ではそれはもう成功しないということ。

<事務局>

来年の夏には、開催日を申し出るスケジュールになっている。天候調査は十分行ふ。

<事務局>

先回の説明では、江府町鏡ヶ成の会場候補地の名称を仮称としていたが、江府町さんで検討いただき、「国立公園奥大山高原」という命名をいただいた。
その他に、荒天の定義についてご質問をいただいたので、荒天は大雨・洪水・暴風・強風ということ定義し、荒天会場を使う場合の判断をだれがするのかも書き込んだ。

<委員>

緑の少年団は何団あるのか。全国植樹祭には全団参加という方向か。

<事務局>

そのように、させていただきたい。

<委員>

鳥取県の場合、緑の少年団イコール小学生。しばらく少年団活動に関して、実質、県内の色々な植樹祭等であるとか、緑の少年団の交流会等、常時参加できる学校は非常に少なくなってきていると実感。学校統合の影響は、日南町の例で、各学校にほとんど結成されていた緑の少年団が、統合後はなくなってしまった。境港市も同様。米子市の日新小学校は、鳥取県で一番早く緑の少年団を設立したが、統合して今はない。緑の少年団もなくなった。今後もまた、そういうことが起こるのではないかと。交流会とか植樹祭とか大きな全県的会合に参加できている学校は非常に少なくなってきているが、参加している学校はそれなりに頑張っている。県全体でどうだろうかと言われた時には非常にわかりにくい状況。

<事務局>

緑の少年団は、東部に 23 団、中部に 9 団、西部に 12 団。合せて 44 団あるということ。

<幹事長>

今後、今言われた少年団の減少が加速する様な事になると困る。教育委員会の方とも話をし、何とかそういうことがないようにして進めたいと思う。

<委員>

少年団の服装や帽子、スカーフ、団旗等が揃っているか、細かい所まで確認をして、大会の間際になってから学校の先生が大慌てされないように配慮してほしい。

<事務局>

承知。

<幹事長>

今回いただいた意見は、盛り込むべきものは盛り込むので、その内容は、事務局に一任していただき、実行委員会に基本構想案出させていただくということで、ご了承していただけないか。

<委員>

了承。

<委員>

このイベントは、循環型の継続的な森林づくりを基本に据えている。そのためには、県内の森の現状を知る必要がある。現状は、東部から西部まで色々な問題点がある。用瀬の山のマツ枯れ、中部での竹が繁茂。智頭町では鹿の害。そういうことを、鳥取県西部に住んでいたら東部の事情はわからない。今の山の現状を、タペストリー等、見せ方は色々あるので、ご来場いただいた方に見ていただくようなことも必要。きれいなイベントで終わらせるのではなく、啓発部分も力を入れて欲しいと思う。

<事務局>

承知。

<事務局>

新たな「国造り運動」の中に「森を知る集い」が掲げられている。自然や森の役割を伝承する中での「森を知る集い」で、それらを取り入れながら参加した県民にお伝えする。そして本大会においても、展示スペースを設けての啓発や、前日に計画されている林業後継者大会等々で、ご来場の皆様にお伝えすることも出来る。

<委員>

植樹祭は平成 25 年に実施されるが、それに至る経緯等メイキング的なものは、伝えることができるのか。何はいつからこうされたのか、例えば植樹会場の整備はこのような経緯等シナリオの様なものはあるのか。

<事務局>

現在計画表を作っている段階。苗木についても、この秋から種を手配しなければならないということもあり、主に大山山麓で収集中。今年は種が不作ということで、山林樹苗協同組合にもご協力をいただきながら、25 年の春に間に合わせるように取り組んでいるところ。大会の内容は、今年度、基本構想を決定し、来年度には基本計画を造る。24 年には実地にあったような形の実施計画を立てていく。現場は、23 年度の春から、整備にかかっている。詳しくはまたお伝えする。

<委員>

そういう事を開催当日来場された方々にお示しするような場面が欲しい。はじめて参加して、植樹祭を味わって終わりになる人もいるかもしれないので、そういう方に今植栽した苗木は、3 年前には、既に準備を始めたものなのだ等々、前段階からすごく動いていることがあると伝えることができればと思う。

<事務局>

了解。

<幹事長>

今のご意見の中で、本番までに色々情報発信出来るようなことをして、県民総参加の運動に取り組みさせていただきたいと思う。

来年23年秋開催の「全国豊かな海づくり大会」はつい先日、一年前のプレイベントを実施した。まだ開催日も決まってない段階だが、来年の9月か10月頃開催を想定して、森林保全活動も視野に入れた「白うさぎ大使」による国造り運動を実施しているところなので、ぜひその成果を全国植樹祭の方に繋げて行きたいと思う。これからもよろしくお願ひしたい。